



# Komatsu高校 学校通信

令和3年

11月

## 「ボーっと生きてんじゃねーよ」～五感と第六感を鍛える～

特活課長 須山和彦

私の好きな番組の中にNHKの「チョコちゃんに叱られる」という番組があります。5歳の設定のチョコちゃんがいろいろな日常の質問を大人にしますが、答えられないと「ボーっと生きてんじゃねーよ」と叱られてしまう番組です。

今後、スマホを使っただけの便利な生活は日ごとに拡大し、AI(人工知能)に頼る場面も増え、ますます「考える」必要のない生活になりそうです。

ヒトに本来、備わっていないなければならない機能が、便利社会のなかで退化していく、といっても過言ではありません。

皆さんは、五感ということばを耳にしたことがありますか？それは人を含めた動物の多くのものが、外界を感知するために古来から備えている5種類の感覚機能のこと、視覚・聴覚・臭覚・味覚・触覚のことです。分かりやすく説明すると大和言葉で「みる」「きく」「かぐ」「あじわう」「さわる」と言います。

その他にも、第六感ということばを知っている人もいるでしょう。この「心覚」とでも言うべきものは、大和言葉では「さとる」と言い、ココロ(心)で繊細な動きを把握するという意味があるそうです。

これらの働きが、過敏になることも鈍感になることもなく、素直に働いていることが大事なのです。まさに五感と第六感、生命体を守るためのセンサーです。皆さんは日常の生活で意識して鍛えているでしょうか。

昨今、自動車に走行車線をはみ出さない機能や衝突を防止するといった安全機能を備えた車が発売されるようになってきました。誤ってアクセルをブレーキと違って踏んでも緊急停止をしてくれる。ハンドルを握ってなくても、居眠り運転していても、車線をはみ出さないように安全を確保してくれる。渋滞でボーっとしていても追突を防止してくれます。自動車メーカーは高齢社会でも販売台数を伸ばさなければ儲かりません。そのため、運転年齢を引き延ばそうと、血眼(ちまなこ)で開発に力を入れています。

しかし、皆さんはこのような新型の自動車を、欲しいと思いますか？

このように自動運転ばかりになってしまえば運転免許の必要もなくなってきますね。これらのことは人間の本来兼ね備えている五感を台無しにしているばかりでなく、退化させているにほかなりません。

確かに日本のような高齢社会において目や感覚の衰えが気になってきた方にとっては、ありがたい機能かもしれませんが、若い人にとっては必要のない機能なのです。若い人には感覚を研ぎ澄まして「考えること」を続けてほしいと思います。

「ボーっと生きてんじゃねーよ」とチョコちゃん以外の人にも叱られないように、少しでも人間として「考える」ことを意識し、自身の存在をアピールしてみてください。

そして、人より秀でたものをつ一つ作ってみてください。

これからの世の中、特徴がある人や一つの分野に飛びぬけて優れている人が生き抜いていきます。

皆さんの将来のためにもぜひ、「ボーっとしない人生」を過ごしてみてください。



(出典：NHKホームページ)

# 令和3年 11月行事予定

日	曜	行 事
1	月	朝清掃
2	火	高校生自転車交通マナー向上対策実践指定校事業(1) 交通安全講話・実技指導①
3	水	文化の日
4	木	語の日 校内漢字テスト⑧
5	金	高校生自転車交通マナー向上対策実践指定校事業(2) 交通安全教室② 文科省地域協働事業県外研修 漢字検定
6	土	進研模試、進路マップ(1・2年) 竹林整備の下草刈り(9:00～)
7	日	
8	月	↑相互参観授業 校納金引落
9	火	↑授業公開
10	水	
11	木	↓ 類型選択説明会(1年普, 7限)
12	金	↓ 全校集会 社会見学(3年, 砥部動物園) 第2回運転免許取得説明会
13	土	竹林整備の下草刈り予備日(9:00～)
14	日	竹林整備③ 第143回珠算・電卓実務検定試験
15	月	↑朝の読書週間
16	火	
17	水	伝統産業視察(1年4組)
18	木	↑高文祭(美術・工芸・書道・写真) 校内漢字テスト⑨ 探究活動発表会(2年普, 7限)
19	金	↓ 第2回人権・同和教育ホームルーム活動
20	土	被服製作1級(和服)技術検定
21	日	↓
22	月	期末考査発表
23	火	勤労感謝の日
24	水	
25	木	
26	金	
27	土	
28	日	第66回ビジネス文書実務検定試験
29	月	↑期末考査(～12/3)
30	火	

## <小松高祭(文化発表会)について>

先日の小松高祭では、それぞれの文化部・クラス・委員会の生徒たちが時間をかけ作り上げた作品や発表を鑑賞しました。生徒会の呼びかけに応じて一人一人の生徒が、感染症対策を自覚をもって行ってくれたことで、落ち着いた雰囲気の中で文化に親しむことができました。二重の意味で小松高生の成長を感じるすばらしい文化祭になりました。